

- ① 記事を読み、ロボットスーツの用途と効果を簡潔にまとめましょう。

腰に装着して入所者の移動や入浴時に使用。介護者が腰が痛いと思うことがなくなった。



介護支援用のロボットスーツ「HAL」の実演をする職員(右)とロボットスーツの説明を受ける職員(中央)＝杵築市日野



介護の負担を軽減

杵築市の特別養護老人ホーム ロボットスーツ導入

杵築市日野の特別養護老人ホーム「菩提樹」(大木隆施設長)が介護支援ロボットスーツを導入した。介護する職員の負担を軽減することで、厳しい職場環境の改善、離職防止につなげる。

ベンチャー企業「サイバードアイン」(茨城県つくば市)が開発したロボットスーツ「HAL」(ハル)(介護支援用)で、補助金を利用して購入したものと、県社会福祉介護研修センター(大分市)から借りた計2台。価格は1台約150万円。国の補助金を使った導入は県内で初めて。同ホームであつたお披露

離職防止や環境改善に

目式には、関係者の約30人が出席。1カ月間、試験的にHALを使った介護士、宇都宮仁さんが、実際に装着して介護動作を実演。「介護時に腰が痛いと思うことがなくなった」と効果を説明した。HALを使ったトレーニングや普及に当たっている大

分ロボケアセンター(別府市)の加藤聡さんによると、たつている。今後も介護ロボットの導入を進めるといふ。大木施設長は「介護職員の負担軽減を進め、少しだけでも離職防止につなげたい。ロボット開発が進むことで福祉環境の改善につな

がればうれしい」と話している。(三井祥聖)

- ② 記事からは、介護する職員が離職する原因の一端がうかがえます。何でしょうか。

体力的な負担が大きい

- ③ ロボット(AI)の開発が進むと負担が軽減されそうな職業と、具体的にどんな業務の負担が軽減されそうか、考えてみましょう。

例えば先生だったら、児童生徒の解答の正誤をAIで読み取れば、宿題の丸付けが楽になるかもしれません。

(2017年2月15日付朝刊別杵見画面)